

## みやぎ生協 福祉活動助成金 助成活動報告書

団体名	山元町子どもミュージカルプロジェクト	
代表者名	代表 佐藤作智栄	
連絡先	TEL : 0223-36-7586	E-mail y.yumefuusen@gmail.com
FAX :		

## 1、助成事業報告

助成を受けた事業名	子どもの笑顔元気プロジェクト in 山元町	
事業の目的	東日本大震災以降、多くの住民の生活環境が一変し、現在でも困難を抱えている方もいます。本プロジェクトでは、子どもたちが自らの感情・心情・思考などの内面を表現する「表現活動」を通じて、心のケアを行うとともに、互いに意見を交わし、協力して舞台を作り上げる「コミュニケーションワークショップ」から育ち合い、その活動が保護者や地域住民を巻き込み、山元町を再生していく事を目的としています。	
事業の具体的内容	<p>実施日時／ワークショップ* 1/16(土)14:00-17:00, 1/17(日)10:00-16:00, 1/23(土)10:00-16:00,1/24(日)9:30-12:00 12/13(日)13:00-15:00</p> <p style="text-align: right;">本番*</p>	
	<p>実施場所／ワークショップ* 山元町つばめの杜ひだまりホール 会議室 5・6・7、和室、リハーサル室、文化研修ホール 本番* 文化研修ホール</p>	
	<p>活動内容／被災地の子ども達が自らの感情・心情・思考などの内面を表出する「表現活動」を通して心のケアを行い、互いに協力し合いながら作品を創り上げる体験が町を再生していく原動力となっていくことを目的とする「ミュージカルワークショップ」とその成果をまとめたミュージカル公演を行った。全21名（山元町・亘理町在住の5才～5年生まで）の参加者の子ども達は、プロの役者と共に4日間でオリジナルミュージカル公演を製作した。ストーリーに沿って子ども達が自らの思いを台詞や踊りに込めて表現するのはもちろん、本編の最後には、子ども達が一人ずつ震災復興への思いや自分の町への思い、今なお辛い思いをしている方々への応援メッセージ等も発表した。</p>	
開始から完了まで	<p>プロの役者の主導によるコミュニケーションワークショップを通じて、子ども達が意見を交わしながら作り上げる連帯感、表現活動での喜び、本物の舞台芸術に出会う刺激と感動につなげていくことができた。また、ワークショップで作ったミュージカルの舞台発表を通じて、地域住民への復興応援メッ</p>	

の 流 れ	<p>セージ、子どもたちにとっての地域への愛着形成、地域全体のコミュニティ形成へつながる大変充実した活動ができたと考えている。</p> <p>感染対策として、ホールが定員の四分の一以下の利用制限を設けていたため、参加者人数も半数に減らし、観客も限定しなければならなかった為、本番を2回行うなどして少しでも多くの方に見ていただけるような対策を行った。</p> <p>※別紙 活動報告書 参照</p>
活 動 の 成 果 と 教 訓	<p>◆この短期間で、とても濃い時間をプロの方、地域の方、こども達と、共有できた事、こども達のいいところをたくさん引き出してくれた事、心も頭も晴れました。</p> <p>◆地元やこども達が輝いていくために、全力で活動していてくれる方がいらっしゃる事がとても嬉しかった。「町」と聞くと大きすぎますが、こういう行事・感覚をもっと多くの方と共有したい。</p> <p>◆震災から10年という節目の年にコロナ禍でもあるにもかかわらず町の活性化の為に、被災した町で育っていく・この町を担っていく子供達の為に、また震災で（特にこの一年はコロナの影響で）希薄になってしまった人と人との繋がりのおかげにも大いにこの事業は有意義であったと思います。人を失い、家を失い、町の半分の景色を失い、思い出の場所も変わってしまった町の姿になった今、この町を元気にしたいと思い、その為に子供達の元気な姿を届けたいという熱い思いが復興に繋がる。色んな意味でこの事業に参加し子供も大人も皆が心の栄養をもらったと思います。</p> <p>◆みんなで一つのものを作り上げる楽しさ！それが、これからの生活にいろんな場面で役立つと思います。もちろん、自分と頑張った友達もいるこの場所、自分の街のことも大切に思えるようになりますよね。</p> <p>◆コロナ禍で希薄になった人の繋がりが、目標に向かって子供も大人も一つになれた。こんな素晴らしい事に参加できた事を心から感謝しております。素敵なお機会・素敵なお出合いに恵まれて、子供に繋がることの大切さを知ってもらえたのではないかと思います。またこの貴重な経験は息子にとって一生の財産になったと思います。私達大人も子供達の一生懸命な姿に感化されて何か始めなければ…と刺激をもらいました。</p> <p>◆我が子の成長を共に喜んだり、次回につなげたいとの思いが一致して大人達も一つになった気がした。大人も新しい知り合いが沢山できました。次の楽しみを作ることも、生きがいです。</p> <p>◆初めてお会いするママ達やスタッフの方々も我が子を優しく受け入れた下さり、気持ち温かく感じました。地域のつながりっていいな、と思いました。</p> <p>◆このような子供達の為のプロジェクトを今後も続けてもらえたら素晴らしいと思います。その中でもミュージカルと言う貴重な体験を、それもプロの指導で経験できる子供達はとても幸せだと思います！</p> <p>-----</p> <p>アンケートからもわかるように、子ども達は初対面ながらも演出家や出演者とのワークショップを通して活発にやりとりをし、楽しんで表現活動を行っていた。また、本番を通して強い達成感を得ることができ、自己肯定感や、またやってみようというチャレンジ精神も育てることができた。</p> <p>同じ地域の仲間と共に作り上げたことで地元への愛着心が育ち、地域コミュニティの活性化・復興に寄与する人材の育成につながるともに、子ども達の活力が大人達、ひいては地域を元気にしていくなど、当初の目標を十分に達成できたと言える。</p>
今 後 の 展 望 な ど	<p>山元町・亘理町それぞれの参加者や保護者、観客からも「ぜひ継続的にやってほしい。」という声を受け、山元町は町内の子育てサークルと町の教育委員会・生涯学習課が町長や地元企業も交えて、亘理町は保護者有志と町の子育て支援課が、実現に向けてそれぞれ調整を行っている。また、さらに地元企業や自治体などとの連携を強化していければと考えている。</p>

## 2、助成金使途報告書

### ■ 収入の部

確保した資金内容	金額 (円)	備考
福祉活動助成金	100,000	
宮城県文化芸術の力による心の復興支援助成金	2,000,000	
カメイ社会教育振興財団	200,000	
子どもゆめ基金	216,000	
自己資金	5,969	
合計	2,521,969	

### ■ 支出の部

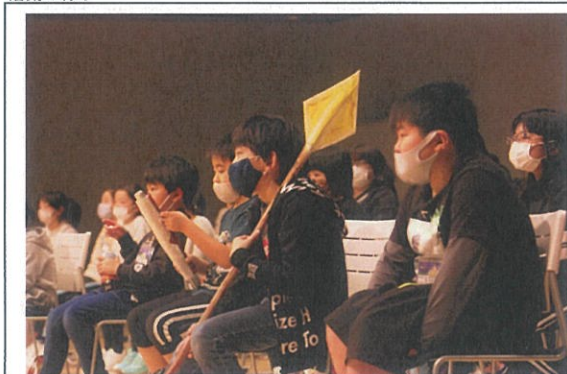
費目	内容	予算額 (円)	実支出額
賃金	事務局人件費(208,000) 事務局アルバイト人件費(40,000)	248,000	
報償費	演出家・振付家指導料(250,000) 役者出演料(4人×4日 320,000) 舞台監督料(120,000) 舞台スタッフ人件費(3人×3日 225,000) 音響スタッフ人件費(3人×3日 231,000) 照明スタッフ人件費(3人×3日 346,500)	1,492,500	
需用費	印刷費(ポスター、募集チラシ、公演チラシ 86,400) 参加者配布用台本・CD(27,940) 小道具・舞台装置設置材料(4,608) 消毒用消耗品(1,094) ガソリン代(23,337)	143,379	100,109
役務費	資料郵送代(切手代 8,400, 郵送代 1,200, レターパック 11,100)	20,700	
使用料	山元町ひだまりホール使用料(111,660) 高速代(5台分3～5日分 36,030)	147,690	
賃貸料	舞台装置運搬用トラックレンタル代(83,600) 衣装レンタル料(33,000) 舞台装置レンタル(155,100) 音響機材レンタル(82,500) 照明機材レンタル(115,500)	469,700	
合計		2,521,969	

\*用紙が足りない場合は他の用紙などで補ってください。

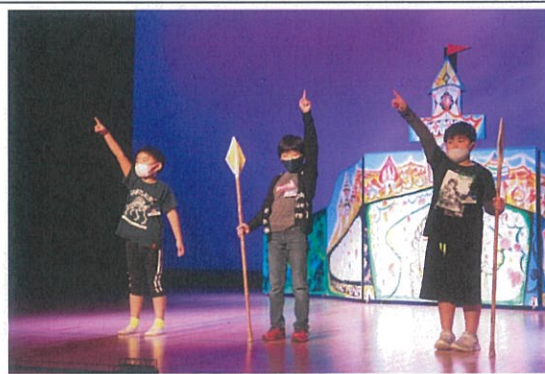
活動報告書③

事業名	子どもの笑顔元気プロジェクト in 山元町				
活動名目	ミュージカルワークショップ④	実施日時	令和3年1月23日(土) 10時00分～16時00分		
実施場所	山元町つばめの杜ひだまりホール 諸室				
内容	前半は、先週までのダンス、歌、お芝居の確認はもちろん、まだ手を付けていなかった後半部分の稽古も行いました。1週間を心待ちにしていた子ども達は、家でも踊り歌っていた様子で、積極的に稽古が展開されました。午後は衣装合わせをした後、前日から設置された舞台セットの中で稽古を行いました。また、稽古の最後には、子ども達それぞれからミュージカルを作りながら感じたこと、考えたこと、高学年の子ども達は舞台制作と震災復興への思いやまちづくりへの思いを重ねて、代表の5人が自分の気持ちを語るシーンを作りました。本番公演の舞台となる文化研修ホールは、定員200名のホールですが、今回は利用人数制限があり厳しい定員制限が設けられているため、急遽苦肉の策として本番日に2回の本番を行うことにしました。予定していた本番日のゲネプロがなくなり、ゲネプロ後の照明や音響の調整を行うことができないため、子ども達の稽古後にはスタッフによって念入りの調整が行われました。				
主催団体名	山元町子どもミュージカルプロジェクト		協力団体名	NPO法人子育てひろば夢ふうせん 子どもの笑顔元気プロジェクト	
参加者	地区住民	外部の参加者	講師	スタッフ	合計
	子ども21名/大人18名	0	4	実業6名/ 舞台スタッフ11名	60

活動の様子



▶午後になり、本番の舞台装置で練習する子ども達。友達が舞台上で稽古している時は、他の子達は客席で観ています。本来ならば、自分の出番以外は舞台の脇にいて正面からは見られないのですが、子ども達同士がお互いを見て「お互いを認め合う」ことを大切に舞台が作られています。



▶舞台の上でドキドキしながら練習をする子ども達。どこにどうやって立つかの調整や、覚えること、気をつけることがたくさんあります。いつ、どこに出るかも、自分で覚えて考え動かなければいけません。子ども達はその中で、お互いに「協力」し、あるいは自分で「判断」して動けるようになっていきます。



▶子ども達の後ろでは舞台装置が動きます。どこにどう動けばいいのか、子ども達と舞台装置の調整など細かい調整も続きます。





▶大人役者との稽古も、照明が当たり効果音やBGMが入り、どんどん迫力が増していきます。



活動報告書④

事業名	子どもの笑顔元気プロジェクト in 山元町				
活動名目	ミュージカル本番・振り返りの会	実施日時	令和3年1月24日(日) 9時30分～16時30分		
実施場所	山元町つばめの柱ひだまりホール 文化研修ホール・会議室・和室				
内容	<p>感染症対策として2回の本番を開催。 本番が照明や明かりが入って初めての通し（最初から最後まで続けること）という、かなりの急展開でしたが、子ども達は臆することなく歌って踊りワークショップの成果を十分に発揮することができました。一度めの本番では緊張のあまり出番を間違えることもあった子ども達でしたが、それもプロ役者による機転で楽しくカバーしていました。</p> <p>また、ストーリーに沿って子ども達が自らの思いを台詞や踊りに込めて表現するのはもちろん、本編の最後には、震災復興への思いや自分のまち、コロナ対策で来られなかったおじいちゃんのおあちゃんへの思いなども語り、客席からは大きな拍手をいただきました。会場は感染症対策として、観客数は定員の4分の1に限定し、上演途中にも十分間の喚起休憩を設けるなどの工夫を行いました。会場内は朝から地域ボランティアの皆さんによる消毒や配席準備を行っていただいたほか、客席のマスク着用の徹底はもちろん、入り口での検温、消毒などの感染症予防対策を行い無事終了することが出来ました。</p> <p>子ども達が懸命に踊り歌う姿、お互いに支え合う姿に感激し、涙する保護者の様子も多く見られました。公演終了後の振り返りの会でも、参加者や保護者から「継続してほしい」との声も頂き、形は変わっても何かしらの形で開催をしようと検討中です。</p>				
主催団体名	山元町子どもミュージカルプロジェクト	協力団体名	NPO法人子育てひろば夢ふうせん 子どもの笑顔元気プロジェクト		
参加者	地区住民	外部の参加者(観客)	講師	スタッフ	合計
	子ども21名/大人18名	68	4	カメラ1名/実業5名/地域ボランティア5名/ 舞台スタッフ11名	133

活動の様子

	
<p>▶いよいよ本番。ボランティアチームがホール入り口で消毒、検温、名簿作りなどの準備・対策をして臨みます。</p>	<p>▶いよいよ、本番がスタートしました。子ども達が生き生きと光を浴びています。</p>

	
<p>▶お見事！としかいいようない、堂々とした演技をみせる子ども達。</p>	<p>▶本番のステージ上で初めてマスクを外した子ども達の表情を見ることができました。どの子どもとも輝いています。</p>

	
-------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------

▶プロの役者を中心に、ステージにいることを存分に楽しんでいます！

▶みんなで力を合わせて、歌の力で悪い魔法使いをやっつけます。お芝居の内容にシンクロして、子ども達も一丸となって歌い上げます。



▶みんなで踊るラスト曲。リズムに乗って、子ども達は楽しそうに歌い上げます。客席からも大きな手拍子が聞こえてきました。



▶お母さんが心配していた最年少の女の子も、立派に役を勤め上げました。

▶子ども達の懸命な姿に涙する保護者の中には、「震災以来、涙することを避けてきた。こんなに嬉しい涙はない」「コロナでいろんなことを我慢し続けている子ども達だが、今日は最高の笑顔が見られた」との感想もありました。

▶最後にこのミュージカルや自分の街について、また感染症対策で来られなかったおじいちゃんおばあちゃんに向けて、子ども達が丁寧に想いを語ってくれました。

# ●本番の様子を取り上げた新聞記事より

(19)

みやぎ

(第二種郵便物認可)

大町

コヒ

栄千

栄段

2021年(令和3年)1月31日(日曜日)



山元町の子どもたちが踊る様子

## コロナに負けぬ劇で躍動 山元

山元町の子どもたちが中心になってつ  
くるミュージカル「シンシンデレラ」が  
24日、同町のつばめの杜ひだまりホール  
であった。

幼稚園児から小学5年生までの21人が  
プロの役者と一緒に出演した。春リンゴ  
の指導で、1月中旬から3日間、けい

ミュージカルは東日本大震災で被災し  
た町に元気と笑顔を届けようと2018年に  
始まった。町こどもミュージカルプロジ  
ェクトの主催で、今回が4回目。

演出、脚本、出演の渡辺りかさん(50)  
らの指導で、1月中旬から3日間、けい

として本番を迎えた。新型コロナウイル  
スの影響で出演者の数はこれまでの半分  
に抑えた。

渡辺さんは「楽しむことや仲間の大切  
さは復興だけでなく、我慢を強いられて  
いるコロナ禍にも通じるメッセージ」と  
語る。

3回目の出演で、オオカミを演じた山  
下小学5年佐藤莉央さん(11)は「みんな  
自由に考え、舞台をつかっていくのが楽  
しかった。恥ずかしがり屋だったけれど、  
3回の経験を通して堂々とした気持ちで  
できるようになった」と話した。

## ミュージカル 子ども21人プロと共演

みやぎ